ふるさと歴史アラカルト

三本の矢（前編）毛利元就と矢の話

　今回は、テレビなどで経済政策の言葉としても耳にする「三本の矢」について紹介します。三本の矢とは、中国地方の戦国武将毛利元就（１４９７－１５７１）が亡くなる直前、長男の毛利隆元、吉川家へ養子に入っていた次男の吉川元春、同じく小早川家へ養子に入っていた三男の小早川隆景を枕元に集め、矢は一本では簡単に折れるが、三本まとめると簡単には折れないということを実際に示して、兄弟三人が協力して毛利家を守るように言い聞かせたというものです。これは話としては有名ですが、隆元が元就より早い永禄６（１５６３）年に亡くなっていることや、元就が亡くなる時期に元春が出陣していたことなどから、史実ではないという説が一般的です。

　当時の資料として、元就が弘治３（１５５７）年に、隆元、元春、隆景への戒めを書いた「三子教訓状」とも呼ばれる書状があり、他家に養子に入った元春、隆景に対して「毛利」の二字をおろそかにしてはならないと述べ、また、兄弟三人が疎遠になったら三人とも滅亡すると思っておくようにと述べています。内容的に似た部分も多いことから、これが後に三本の矢の話に変わっていったといわれています。また、江戸時代に書かれた「前橋旧蔵聞書」「常山紀談」などでは、元就が多くの子どもたちを枕元に呼び、子どもの数の矢を取り寄せて、一本ずつ折れば折れるが、多くの矢を一束にすれば折れないとして、子どもたちに対し、協力して毛利家を守ることを教えた話が残されています。これには隆景は登場しますが、隆元と元春は登場せず、事実と近い状況を描いているといえます。この書物自体が後に書かれたものであるため、史実かどうかを知ることはできませんが、この話が三本の矢の話の元になったともいわれています。

　いずれにしても、三本の矢の一本を担う元春の子が、初代岩国藩※主吉川広家であることを考えると、三本の矢という言葉にも親近感が湧くのではないでしょうか。

※岩国藩の成立…正式には慶応４（明治元年 1868）年

◀『常山紀談』（写本）…岡山藩士の湯浅常山が元文４（1739）年に記した逸話集。元就の矢の話も記されており、隆景（赤線部分）のみ登場する。

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7－19　☎㊶0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

岩国市　人口・世帯

人口	143,604 人	男性　67,998 人　女性　75,606 人
世帯	66,822 世帯	※外国人人口を含む（平成25年９月１日現在）

交通事故発生件数　８月分事故件数 71件（435件）　死者数 １人（7人）　傷者数 92人（519人）
※高速道路発生分を除く　※（　）内は平成 25 年累計

広報テレホン　休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス　☎㉓1234

目の不自由な人へ　「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ　☎㉙5016　FAX㉑3337